

## ハイエク「社会における知識の利用」の要約

溝口徹夫

参考資料 F.A.Hayek, 'The use of knowledge in society', American Economic Review, Vol. 35, No.4, Sept. 1945 pp519-530 <http://www.econlib.org/library/Essays/hykKnw1.html> (2014/08/31 検索)

原典は約 70 年前に発表された資料である。古典資料で、全てが適切であるか否かは別として、現代でも例えば以下の示唆を与えらると思えるので、関係が深い部分を主に日本語で要約した。

- 組織が国家レベルであれ、企業レベルであれ、適切な判断をするには、特定の時と場所の環境に依存する、分散した知識が必要で、これは専門的知識とは異なる。
- 全ての知識を中央に集中し、計画をすることでは、特定の時と場所の環境での変化に迅速に適応する問題は解決できない。しかし、分散した知識だけでは不十分で、より大きな経済体系の変化の全体パターンにその人の決定が必要に応じて合致するように、その人に更に情報を伝える問題、動機づけ問題他が残っている
- 統計量で変化を議論することが多いが、小さな変化を見落とし勝ちである。
- 価格体系(Price System)の機能は情報の伝達である。これは人間が意識的に行っている機能ではない。

以上のように、原典では、経済問題を扱っているが、社会(組織、個人)の、情報や情報システムに関わる議論をしていると受け取れ、情報システム学会の持つ課題検討への参考になると思える。以下の下線部は要約者による。表現に疑問を持たれた場合はご指摘を頂ければ幸いである。

### 要約

- 1) 我々が合理的経済秩序を確立したいとしたとき、解かねばならない問題は何か。合理的経済秩序の問題の特性は、我々が利用する環境の知識は集中、統合された形では存在せず、個々の別個人が所有する、不完全、ときには矛盾する分散した知識だと言うことである。
- 2) 社会の経済問題は単一個人に「与えられた」資源をいかに配分するかの問題ではない。社会の構成員が熟知している資源の最善の利用を、ある目的のために（その相対的重要さはそれらの個人しか知らないのであるが）いかに保証するかの問題である。大まかに言えば、全体としては誰一人にも与えられない知識の利用の問題である。
- 3) 「計画」は入手可能な資源の配分についての、相互関連のある複合決定を指す。全ての経済活動はその意味で計画である。この計画は誰がやるにせよ最初は計画者に与えられてはいない知識によるもので、それを計画者に伝えなくてはならない。この問題に関連して、誰が計画をするかという問題がある。議論があるのは計画がなされるべきかどうかではなくて、計画は中央で全体経済体系を一つの権威で行なうか、多くの個人の間で分けて行なうかである。
- 4) 知識は特定の個人のもので、専門家権威が保持すると我々が思っているものがある。科学的知識が公衆の目には重要視されるため後者の方が良いと考えがちだが、それだけでないことを忘れがちである。科学的知識は専門家を見付けばよいということになるが、それは単に問題を移動させたに過ぎないし、たとえそのようにして問題を解決したとしてもそれは広い問題の一部である。とても科学的とは呼べない、体系化されていない知識が疑いもなく存在する。それは特定

の時と場所の環境の知識である。誰でも有効に使えるユニークな情報を保持していて、他人に対して優位性をもつ。但し、その利用はその人に決定を任し、その人の能動的協力がなされて初めて可能になる。

5) 経済問題は常に変化の結果起こり、変化の結果のみによって起こる。以前と同じことが続くのであれば、決定の必要はないし、新計画を作る必要もない。競争的業界では常に費用の低下を狙って戦いが行なわれている。このように常に小さな変化があることを忘れる傾向があるのは、詳細の動きに比べ安定している統計量にとらわれているためである。

6) 社会の経済問題は、特定の時と場所の環境での変化に迅速に適応するのが主であると、合意できるのなら、それらの環境に精通し、関係のある変化を直接知っていて、その適応のために直接利用可能な資源のことを知っている人に、最終的決定を任せなければならないということになる。まず全ての知識を中央委員会に伝え、全ての知識を統合し、指令を出すということでこの問題は解決できない。なんらかの非集中の形で解決しなければならない。非集中化が必要なのは、そのようにして初めて特定の時と場所の環境の知識が素早く利用できるからである。しかし現場の人の、自分の周囲の事実に限定した、慣れ親しんでいる知識だけでは決定は出来ない。より大きな経済体系の変化の全体パターンにその人の決定が必要に応じて合致するように、その人に更に情報を伝える問題が残っている。

7) 価格体系(Price System)はもしもその本当の機能を分かりたいのであれば、情報の伝達機構と見なければならない。一つの資源の不足(それが価格に反映する)が指令の一つも出さず、ほんの一握りの人しかその原因を知らなくても何千人の人がその資源を節約すると言う、正しい方向に向いているというのは驚きである。これは人間が意識的にしたものであれば素晴らしいものだが、不幸にも、人間の意識的成果でないし、なぜそのようにしているか人間には分からないことである。問題は、

- ・ 資源について、一個人の制御を越える利用範囲をいかに拡大するか、
- ・ 意識的制御の必要をいかに放棄するか、
- ・ どのようにすべきかと言われなくても、個人が望ましいことをするようになるには、どのように動機付けるか、

である。このような問題は経済だけに限らないが、価格体系はこの性質を持ったものである。これに換わるものは見つかっていない。